

令和5年度
東京都花粉症対策検討委員会
(第2回)
議事録

令和6年1月17日
オンライン開催
事務局設置場所：東京都健康安全センター

(13時30分開会)

○千葉健康危機管理情報課長 定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第2回東京都花粉症対策検討委員会を開催いたします。

委員の皆様、本日はお忙しい中、本委員会へご出席賜り、誠にありがとうございます。東京都健康安全センター健康危機管理情報課の千葉と申します。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、デジタルトランスフォーメーション推進の一環として、リモートで開催をさせていただいております。事務局、都庁含めて一部リモートで参加しております。よろしくお願いいたします。また、Web開催ですので、通信環境に起因する遅延をはじめ、機器の操作の点で、皆様にはお手数、ご面倒をおかけするかもしれません。円滑な議事運営にご協力、ご理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

開催にあたりまして、当センター健康情報解析担当部長であります野口から一言ご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。

○野口健康情報解析担当部長 健康情報解析担当部長の野口でございます。委員会の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方には大変お忙しいところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。2月も間近に迫りまして、スギ、ヒノキ花粉の飛散時期が近づいてまいりました。東京都の飛散予測につきましては、都内における信頼性の高い予測情報として都民からも大変注目をされているところでございます。

例年、第2回目の委員会に置きましては、花芽の調査結果や気象データなどに基づきまして、専門的なお立場でご検討板だいでいるところでございます。本日の委員会においてご検討いただいた結果をもとに、本委員会終了後、今シーズンの飛散開始時期及び飛散値の予測に関しまして、直ちにプレス発表を予定しております。東京都といたしましては、適切な花粉症対策を講ずることができるよう、正確かつタイムリーな情報発信をしていきたいと考えております。

限られた時間でございますが、議員の皆様におかれましては忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○千葉健康危機管理情報課長 ありがとうございます。

続きまして、委員の皆様のご紹介になりますが、本日は、今年度第2回目の委員会ということでございます。大変恐縮ですが、お手元の名簿で代えさせていただければと思います。また、事務局に関しても同様とさせていただきます。なお、本日委員のご欠席はないのですが、広瀬委員につきましては、所用のため、音声のみで、途中で離席するとご連絡いただいております。また、吉岡委員に関しましても、途中で退席されると聞いております。よろしくお願いいたします。

続きまして、事務局から本日の資料の確認をさせていただきます。

- 資料確認 -

○千葉健康危機管理情報課長 ありがとうございます。

それでは、これから議事に入らせていただきます。改めての確認になりますが、先ほどご説明したとおり、速記の方以外では音声映像等の録音記録は禁止とさせていただいております。何とぞご理解よろしく願いいたします。

議事進行につきまして、櫻山会長にお願いしたいと思います。会長、お願いいたします。

○櫻山会長 改めまして櫻山でございます。どうぞよろしく願いいたします。

議事に入ります前に一つ確認でございます。東京都花粉症対策検討委員会設置要綱第11によりますと、会議及び会議に係る検討資料、会議録らは原則公開となっております。ご異議のある方はいらっしゃいますか。ご異議がある場合は挙手ボタンを押していただければと思います。特にご異議はないようでございます。ご了承いただいたということになります。よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。次第でございますように、本日の議事は、2024年春のスギ・ヒノキ花粉飛散予測についてとなっております。最初に、議事の(1)ア_2023年花芽調査結果について、事務局より資料1について報告をお願いいたします。

○小林課長代理 事務局の小林でございます。

2023年花芽調査結果についてご説明いたします。資料の1をご覧ください。調査は、2023年11月21日に実施しております。調査員は村山委員と倉本委員に行っていただいております。

今回の調査では、委員会の第1回委員会でご説明しておりますが、環境省等で使用している判定方法を採用し、その判定対象となる林を選定しましたことから、一部の調査ポイントが変更となっております。また、推定雄花数は雄花着花量判定基準等を用いて算出しております。裏面に結果を表でまとめておりますのでご覧ください。

2023年のスギ雄花の着花量は観測地点平均で1m²当たり2,983個でした。ばらつきがありますが、全体的に前年を下回る傾向となり、前年比33%から74%の結果となりました。資料1の説明は以上となります。

○櫻山会長 ありがとうございます。

ただいまの報告につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いしたいと思います。ご発言のある方は挙手ボタンでお知らせください。

- ご発言無し -

もしないようでしたら、次に移りますが、またあとで気がついたところがあれば、ご発言の機会を設けたいと思います。

それでは、次に議事(1)イ、ウでございます。これは各予測につきましては、それぞれ関連性もあることから、各先生方のご説明のあとに、併せて質疑をさせていただきたいと

思います。では、まずイ_スギ林の雄花着花状況による予測について、倉本委員により資料 2 のご説明をお願いいたします。

○倉本委員 森林総合研究所の倉本です。よろしくお願いいたします。

今年の冬の山でのスギ林の雄花の付き方、付いている量から、来春東京都心、東京都内に飛んでくる花粉量を予測するという形での予測を担当させていただいています。これについてご説明します。

【資料 2 表 1】まず、予測に使うのは林野庁の事業で実施されている関東の各都県のスギの雄花を、目視によって着花量を評価した結果です。これについて、2023 年冬の集計結果が表 1 のようになっています。去年と比較しますと、大体 7 割から、例えば神奈川だと半分ぐらいという、前の年に比べるとかなり少なくなっています。ただ少なくなっているから花粉が少ないかというところでもなく、それは後ほど説明します。

【資料 2 表 2】先ほどのデータから来春、東京各地に飛んでくる花粉量を予測するには、今までの年の関東各県のスギの花の付き方、それと実際に春に飛んだ各観測点での実測値との関係性を使います。複数のパターンが考えられるので、使用するパターンを検討します。ここで示すように、どの地点でも大体、神奈川県と東京都の 2 都県の平均を使うと、うまく予測ができそうだというようなことになります。もちろん若干違いがあって、例えば町田の場合は埼玉を入れる、小平の場合は神奈川だけの方が、相関がいいような結果にはなるんですが、それでも町田の場合は 8 割ぐらいの相関があって、小平の場合も 8 割、9 割の相関があるので、大体どこも押しなべて言うと、東京と神奈川のデータを使うというのが、妥当だと判断しました。

【資料 2 表 3】その関係性を用いまして、選択した予測式の x の部分にその冬のスギ雄花の調査結果を入れて、求めたのがこの数字になります。去年に比べるとかなり少なくなるとは思いますが、この 10 年ぐらいの値と比較した場合、その平年値と同じぐらいのレベルで飛ぶと考えることができるかと思えます。

以上です。ありがとうございます。

○櫻山会長 ありがとうございます。

続きましてウ_気象条件から見る 2024 年春の花粉予測について、村山委員から資料 3 のご説明をお願いいたします。

○村山委員 はい。では、お願いいたします。

【資料 3 表 1】こちらは気象条件、特に日照時間と東京の花粉数との関係を調べたもので、昔は 6 月から 8 月までという 7 月、8 月メインと言われたんですが、現在、東京の飛散総数と最も相関が高いのは 6 月です。横浜も同じような傾向で、7 月も多少関係はあるけれども、これが示しているのは何を言いたいかというと、スギとヒノキの雄花ができ始めるのは、およそ 6 月中だということになります。

【資料3 表2】その6月、7月の気象条件ですが、表2は左から2022年、2023年、それから平年値で、6月上旬から7月下旬までの日照時間を示しています。今年の春に影響する2023年の日照時間ですが、合計値で言うと、6月が137.5時間で、前年よりは30時間少ないんですが、平年よりは12時間多いです。7月はもっと極端で、250時間で、平年値に比べて100時間以上長く、前年より74時間長いです。旬ごとの相関を取った関係では、一番影響するのは6月上旬から7月中旬までの期間なので、最後の7月の下旬は、特に多いんですが、これは余り影響しない。いずれにしても日照時間は平年に比べてやや多いという状況です。

【資料3 図1】これが、左側が2022年、右側が2023年の6月の状況で、一番下が日照時間になります。日照時間の平年比で、薄い色が付いていますのは、平年よりやや多いという地域で、日本列島の中で6月に多かったのは、関東から北陸にかけての地域ということになります。

【資料3 図2】2023年7月は、特に関東地方が平年の160%以上という非常に多い状況です。この傾向は東北地方から中国地方の東部まで広がっていますが、特に関東で多いということです。

【資料3 表3】これは倉本委員の報告にあったデータと同じですが、私は日照時間とこのスギ雄花調査の結果を入れた、重回帰式で花粉数を計算します。まず、気象条件等からは例年並みか例年よりやや多い。そしてスギ雄花の調査では、南関東、千葉、東京、神奈川は平均すると107%になるので、こちらも例年並みかやや多いという結論になります。

【資料3 表4】これが2024年春における都内の花粉数予測です。この予測値を見ていただくと、実は倉本委員の予測とほとんど差がないんですね。都内全域の平均の差で言うと、50個もあるかないかというぐらい、今回は似通った予測になっています。前の委員会でもお話ししましたが、2023年の実測値が他の地域に比べて東京都内だけものすごく少なかったんです。例えば葛飾あるいは北区からわずかな距離しか離れていないさいたま市では、去年11,000個を超えました。2023年の実測が見た目には多いように見えるんですが、他の地域に比べるとかなり少なくなっています。それと比べると、前年比で言うと70%から90%で、立川だけが1万個を超えたので52%になっていますが、これはまだ数値が修正しきれなかっただけで、立川は移転によって花粉数が増えているということは、前回の委員会でお話ししたとおりです。ということで、過去前年に比べると多摩を除いてはやや少ない。一方で過去10年の平均との比率では、平均と同じかやや多いというのが今年の春の結果です。

私は1日に30個以上、1cm²あたりの花粉数が30個以上になる日というのを予想しているんですが、23区内だと、大体34個から38個。多摩地区は青梅が1万個を超える予想なので、2か月以上という予想ですが、ほかは一番少ない小平で23日、ほかは八王子の49日という予想になります。

【資料3 表5】飛散開始時期の予想ですが、スギの雄花は11月の中旬あたりから休眠に入ります。この12月の中旬から下旬にかけて休眠の期間に当たるんですが、年によってこの休眠期間が少しづれます。平年との差を見ていただきますと、11月の中旬は0.5で低かったのですが、その後、11月の下旬から12月の中旬まで、ずっと気温の高い状態が続いています。下旬になって平年並みに戻ったんですが、この休眠期間中の気温というのは、高ければ高いほど休眠からの覚醒が遅れると言われています。この数値から見ると休眠に入ったのはほぼ例年と同じですが、休眠から覚醒したのは少しですが、遅くなっていると見られます。この休眠覚醒から覚めたあとは、開花の準備期間に入るんですが、これは主に1月以降の気温で見えています。

【資料3 図3】気象庁の予想では、1月も2月も気温が高いという予報になっています。15日までのデータを見ると、東京ではずっと平年より高いです。1日から15日までの最高気温の平均は、平年よりプラスの1.83度。2度近く高いというのはすごく高い。平均気温も平年よりも1.47度高い。実際に特に12月の初めの10日間で非常に気温が高くて、この期間だけだと2.3度ぐらい高いです。これで5日頃から、スギ林に近いところで花粉が飛び始めて、1月7日に千葉県の内陸部で事実上、飛散開始になっております。横浜とか、品川区でも9日前後に3日間連続で、1個以上にはならなかったんですが、飛び始めていまして、最近3日間もまた1個未満ですが、花粉が観測されているという状況です。このあとも気温の高い状態が続くと予想されていますので、今年の飛散開始は例年より早くなるだろうという予想になります。

【資料3 図4】これは東京都心の1月の平均気温を1900年から10年単位の平均値を並べたもので、およそ100年前に比べると、今の東京の1月の平均気温はおよそ3度高くなっている。これは、70年代に比べてもおおよそ1度高くなっていて、これが最近、非常に飛散の開始が早くなるということの傾向を表しています。今年の場合には異常に気温が高いので、ひょっとして1月中に飛ぶんじゃないかなと思っていたら、千葉県の内陸部で飛散開始になってしまったということです。

【資料3 表6】今の時点では、次のようになる予想です。過去10年の平均と比べると、およそ1週間早くなる。場合によってはこれよりもっと速くなる可能性があります。もう一つこういう傾向があります。それは、今年のような暖冬のときには、スギ林によって開花の時期がばらつくということです。これはむしろ12月末から1月の初めに非常に冷え込んだときのほうが飛散の開始の時期が揃うんですが、このような暖冬だと、開花の準備がうまくいっているところとかないところが出てきます。これについて、“ナシの眠り病”というのがあるんですが、冬の低温がないと開花がバラバラになってしまう。スギにもこういう傾向が見られますので、予想では8日から11日となりますが、地域によっては少しばらつきが出る可能性があるかと思います。予想としては、例年よりも早いし、昨年

よりも早い。昨年に比べると、1 週間以上早いところが出てくるわけですが、今年は今の状況では気温の推移からこうなります。

○櫻山会長 村山委員、ありがとうございました。

ただいま 2 人の先生方から予測についてのご説明を伺いました。これらの予測に関することなどにつきまして、委員の皆様からご発言がありましたらお願いしたいと思います。

- ご発言無し -

特にないようでしたら、一旦議事を進めさせていただきたいと思います。

それでは、1 のエでございます。スギ・ヒノキ花粉飛散予測のまとめについて、事務局から資料 4 の説明をお願いいたします。

○事務局 事務局の小林でございます。

表 1 と図 1 に、先ほどご説明いただきました、倉本委員、村山委員の予測をまとめました。こちらを踏まえまして、調整し、表 2 と図 2 に東京都の予測をまとめました。調整したものが予測の C になります。上限と下限を設けておりますが、こちらは予測 C のプラスマイナス 15% としたものを、こちらに表示をしております。

次に、予測のまとめになります。都内で 12 地点の観測地点を設けておりますが、そちらの予測値の上限値と下限値、過去との比較等をまとめたものを、表 3 に示しております。また都全体としまして、12 地点の平均をグラフに表したものを、図 3 に表しております。こちらは、今シーズンの予測としまして、区部の平均、多摩地域の平均等を載せています。また、都内の平均としまして、5,200 から 7,000 となっております。飛散量は昨年にならば 0.7 倍から 0.9 倍になります。また、過去 10 年平均に比べますと、0.9 倍から 1.2 倍といった数値となっております。

次に、飛散花粉数の経年変化になります。図 4 のグラフですが、各都市の飛散量の都内平均を棒グラフとして表しております。また過去 10 年平均を折れ線で表示しております。こちらの折れ線ですが、近年の傾向としては、横ばいの傾向となっておりますが、年によりまして、飛散量の差が大きい傾向が受け取れます。

次に、飛散花粉数が多い日の予測について、村山委員から先ほどご説明がありましたが、こちらの予測をもとに、2024 年の予測を表 5 に示しております。飛散花粉数が多い日、この多いというのは 1 cm² 当たり花粉が 30 個以上というものを多いとしておりますが、この多い日の日数が、区部では 35 日程度、多摩地域では 40 日程度となる見込みでございます。都内平均になりますが、こちらは 38 日程度となります。これは前年の 40 日より 2 日少ない数字でございます。また過去 10 年間の平均の 33 日より 5 日多くなる見込みでございます。

次に、飛散開始日の予測について、こちら先ほど村山委員からご説明いただきましたが、飛散開始日は 2 月の 8 日から 12 日頃と予測されております。こちらは、過去 10 年平

均と比較してやや早くなる見込みということでございます。なお、例年と同じになります
が、2月の初め頃に再度、飛散開始の予測を行う予定でございます。

資料4の説明は以上となります。

○櫻山会長 ありがとうございます。

倉本委員と村山委員のご説明をもとに、事務局で作成したまとめでございますが、これ
につきましてご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。ご発言のある方は、
挙手ボタンを押していただくか、お声をおかけください。

大久保委員、お願いします。

○大久保委員 日本医大の大久保です。東京都のまとめに関してですが、以前から思っ
ていたんですが、今年は例年の8割という予測はそれでいいと思うんですが、今年の予測も
実際は昨年の予測と同じようにつくられていますので、昨年の予測に対して今年どのぐら
い減ったかということが重要なのかなと思います。

その誤差が今年の誤差にも多分つながってきますので、昨年との比較というのを、公表
資料じゃなくてもいいので、我々の中での情報として知っておきたいと思いました。昨年
の予測値に対しての今年の予測値の変化ということで、8割というのはあくまでも昨年の
実測値に対する今年の値なので、同じ予測をしていれば、予測から予測のパーセンテージ
が、現象として今年も現れてくるのかなと、私は感じたので発言させていただきました。

○櫻山会長 去年の資料はありますか。

○事務局 事務局の小林でございます。昨年の都内平均の予測ですが、10,400から14,100
というのが予測でございました。そちらを概算になりますが実測値7,935と比べますと、
予測上限の概ね50%という形になるかと思えます。

○大久保委員 ありがとうございます。そうすると、今年も予測上限値から50%、予測下
限値が昨年比30%減でしたので、今年も30%減ということも想定されるのかなというこ
とで、我々の中としては、発表としてはいいと思うんですが、知っておきたいという数字
でありました。

○櫻山会長 大久保委員、ありがとうございます。

昨年の予測値ですと、大久保委員の発言にあったような感じになるのかなと思いますが、
今の大久保委員の発言も含めまして、星山先生、お願いいたします。

○星山委員 2人の予測が非常に近いということは、それによって信憑性が上がるとか、
あるいは余り関係ないとか、どちらになるんでしょうか。

○櫻山会長 星山先生から、お2人の予測が近いということで、信憑性のお話が出ました
が、これはなかなか、別に必ずしも当てようということではないとは思いますが、予測
が近いと何となく当たるのかなという気もいたしますが、事務局は特にありますか。

今のことに関連して、村山委員、いかがでしょうか。

○村山委員 昨年の委員会を思い出していただければ、実は昨年の予測も、私と倉本さんの予測は余り差がありませんでした。ほぼ一致しているという条件で、そういう面で言ったら、信頼性があるのかというのは、結果に対しての問題ですから、先ほどの説明のように、北関東では10,000から多いところでは20,000個という花粉が観測されているんですね。東京のすぐ隣の埼玉市で11,000個も飛んでるのに、なぜ北区とかそういうところで花粉が少ないんだということが問題なんです。

スギの雄花というのは、かなり信頼性があるって、昨年の雄花数は、例えば東京が一番影響の高い神奈川で15,000という数字です。東京も8,000を超えていて、過去10年で一番多かったんですね。そうすると、何が原因かと言うと、これは東京だけが周辺の地域に比べて別の条件になっていた。それが何かと言えば、1回目の委員会でご説明したように、東京の周辺だけなぜか3月の中旬から下旬にかけて、やたらに雨の日が多くて雨量が多かった。

私の予測も倉本さんの予測も、あくまでも春先の天気は平年と同じように推移するというのを前提にしているわけですね。これが大幅に狂ったら、雨が多くなれば少なくなるし、逆に言うと、今年の2月の下旬から4月の中旬にかけて、毎日晴れが続いていけば、多分この予測よりも花粉量が多くなると思います。

あくまでもそれは、これからの目に見えない気象というのを相手にして、実際の結果が決まることですから、その信頼性があるかどうかというのは、予測には信頼性があるけれども、それが結果をピタリと当てるとというのは、春の気象条件が平年並みになってくれないと無理です。

○櫻山会長 ありがとうございます。

倉本委員、ただいまの発言に関連して何かご追加はありますか。

○倉本委員 私が実際の雄花の付き具合からの予測をしていますが、村山さんは、前の年の花の芽がつくられる時期の気象を見ていて、この気象が結構花の量と相関があるんです。

村山さんのアプローチというのは、気象から予測するものの、私から見ると改良版だと思っています。先ほど、村山さんがおっしゃっていたように、単に気象だけではなく、雄花量を重回帰パラメータに使っている。この点が私の予測と一部共通しているところになるので、一つそこが似てくるところかなと、私の立場から見ると思います。

よく気象予報会社の方が、9月か10月ぐらいに結構早めにネットとかで予測を出されると思うんですが、多分あれは本当に気象との相関性だけ使っているんで、結構外す場合があるんですが、村山さんの場合、雄花量を使って補正をかけていると思うので、それが近くなってくる要因じゃないかなと、私なりには解釈していますが、村山先生、どうでしょうか。

○櫻山会長 ありがとうございます。村山委員、何かありますか。

○村山委員 倉本さんがおっしゃるとおりです。このスギ雄花の情報がないときには、気象条件に加えて、前年の花粉数または過去3年分の花粉数というのを計算条件に入れた重回帰式でやっていました。

今も関東は全域に雄花調査があるんですが、まだ全国で34地点か35地点なんですね。そういうデータがないところは、昔ながらの、前年の花粉数、あるいは過去3年の花粉数というのと気象条件の重回帰式で計算しています。

いずれにしても、気象条件だけでは毎年同じような気候が続いたら、毎年多いか毎年少ないかという予想しか出ないので、気象条件でやるのは無理です。どこかで補正の条件を与えなければ、正確に近いところには行かないと思っています。

東京都の場合には、周辺のスギ雄花の調査がしっかりしているので、それでなんとか行っているかなという気がします。

○櫻山会長 ありがとうございます。

倉本委員、何かございますか。

○倉本委員 ご説明ありがとうございました。

できるだけ気象プラス雄花ということでやっていくのが妥当なんだろうと思ひまして、東京都のこの現アプローチはそれぞれのアプローチをやった上ですり合わせて、最終公表予測を出すという形で進めているんですが、既に村山さんに気象プラス雄花というやり方を取り入れていただいているので、より似てくるのかなと思っています。

もう1つだけ補足します。雄花の調査というのは観測者バイアスというのがあります。

まだデータには活用していませんが、事務局と状況を共有するために、東京都独自の雄花調査というのを、私と村山さんで担当させていただいていますが、これを見ても実は私がやった分と村山さんがやった分というのは、個々の結果というのはかなり違いがあります。これは観測者の癖がありまして、癖は一応、パターンを見えています。

幸いだったのは、私の癖は私の前任者の横山先生と似ているパターンだったので、これが今までの村山先生と横山先生でやってきている予測の部分と、多分ずれてこないで済んだのだろうなと思っています。観測者の癖があるので、林野庁の調査も、現場で二人、三人の方に担当していただいて、そこは平均化するような形でデータを出していただいているような体制をとっているところです。そういう形でできるだけクオリティコントロールをして、上がってきたデータを使うようにしていますので、実際はそれがあるんですが、そこはちゃんと補正してやっていくという体制は組まれております。

○櫻山会長 ありがとうございます。

星山委員、何かご追加の発言がございますか。

○星山委員 とてもよく説明が分かりましたので、ありがとうございます。

○櫻山会長 皆さん、ありがとうございます。

他に何かご意見、ご質問等はございますか。

王委員、お願いいたします。

○王委員 倉本委員と村上委員に分かりやすい説明いただきました。統計的な手法ですので、非常に参考になります。ここで確認したいんですが、私も、都内と埼玉で、スギ・ヒノキの花粉飛散量を測っていますが、かなりずれが生じます。その一つの原因は、先ほど村山委員のご説明にもあったように、例えば気温と降水量の影響とかです。

もう1つ、実際に風速とか風向の影響も花粉なので結構受けますが、今後、その予測の方法の中に、風の影響を加えての予測が可能かどうか。確認だけですが、お答えできる範囲で結構ですので、お願いします。

○櫻山会長 王委員、ありがとうございました。

では、これはまず村山委員から少しご意見を伺えますか。

○村山委員 今の王先生のお話ですが、先ほど省いたんですが、去年の3月、雨が多かったのに加えて、風も弱かったんですね。傾向としては、東京に比べると、横浜は10年間の平均値は東京より小さいんですが、神奈川県内ということで、花粉数は東京の2割増しか3割増しになっています。東京都内でも品川区はかなり多かった。8,000個ぐらいになっているので、これは天気の影響というしかないと思います。

風向、風速ですが、例えば3月に一番多い風向というのは、統計値としてあるんですが、今年の3月がどういう風が吹くかといったら、例えば冬型が卓越するのか、移動性高気圧が多いのか、低気圧が多いのかによって、ガラッと変わってしまいます。ですから、今の時点では不確かな予測を入れると、かえって誤差が大きくなる可能性があります。

その一つの理由は、先ほど、倉本委員が関東各地の雄花数から東京の花粉数の相関係数を一覧にしましたが、東側にある千葉県がものすごく低いのに気がつかれましたでしょうか。相関係数が非常に低いんですね。ということは、千葉県はほとんど影響しないということです。なぜかというと、関東では、東から、千葉のほうから吹いてくる風的时候は、大体低気圧が接近しているときで、天気が悪くなる場合が多いんです。ですから、例えば今年の3月に東風が強く吹くよということを予想できたりしたら、もう花粉数を大幅に減らさなきゃいけない。でも、天気予報ですから、当然外れることがあるわけで、これを入れることがかえってよくない。そういった面では、統計的な平均値、平年並みの気候になるというのを前提にしているのが、一番間違いないと今は考えています。

○櫻山会長 村山委員、ありがとうございました。

○王委員 分かりました。ありがとうございます。

○櫻山会長 ほかにご発言のある委員はいらっしゃいますか。

よろしいですか。それでは、特にまとめについては修正のご意見もないようですので、事務局、それでよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

予定しておりました議事はこれで終了ですが、全体を通して最後にご追加の発言等がございましたらお願いしたいと思います。

- ご発言無し -

これから花粉の飛散シーズンに入ってまいります、委員の先生方それぞれご専門のお立場から、花粉症に悩んでいる都民の皆さんに対してのアドバイス等も含めてあれば伺いしたいと思います、どうですか、委員の先生方。「こんなことに注意したらいいよ」とかございますか。

王委員、どうぞ。

○王委員 私は、2年間、委員を務めさせていただきまして、先ほど両委員の報告の中にもありましたように、いろいろ知識をいただきましたので、非常に参考になりました。今後とも対策の検討を進めていただきたいと思います。

先ほどお話ししましたが、埼玉県と都内のスギとヒノキの調査を行ってまして、予測のデータのとおり、花粉の飛散量のばらつきが結構大きいです。

あともう1点、今後もし可能であれば、実際、私の研究では花粉の飛散量ももちろんですが、あと花粉から、アレルギー物質が放出されますので、そのアレルギー物質、つまり花粉症の対策としても、今後、環境因子とか、そのアレルギーの情報とかいうのを提供できればと思います。花粉の飛散量が多いときはもちろんですが、花粉の少ないときでも、アレルギー物質が飛んでいる可能性があるので、私の印象では、PM2.5 みたいな小さい粒子が飛んでいますので、都民の皆さんにはマスクを着用したりして、花粉対策を徹底することが求められるということで、私の発言とさせていただきます。

○櫻山会長 王委員、ありがとうございました。アレルギーの問題は、今後の研究の発展が望まれることだと思います。ほかにご発言のある委員はいらっしゃいますか。

堀委員、お願いいたします。

○堀委員 東邦大学の病院の眼科の堀と申します。今日はありがとうございました。

先生方が調べていただいたデータで、本当によく分かるデータで予想していただいております。ありがとうございます。眼科医の立場から1つだけ発言させてください。もうそろそろたくさん花粉が飛ぶ時期ですので、都民の皆さんには、花粉から目を守るように、眼鏡なりサングラスなどをかけていただくとか、あとは少し早めに目薬で対応するとかというのを心がけていただければと思います。

○櫻山会長 ありがとうございます。堀委員から眼科の立場からお話をいただきましたが、浅香委員、耳鼻科の立場から何かご発言はありますか。

○浅香委員 浅香です。今日は貴重な情報を提示していただいております。ありがとうございます。

先ほど、村山先生からもお話がありましたが、先週、うちのクリニックに花粉症の症状を訴えて、患者さんが来るケースも、もう早くも見られております。

症状が強くなるケースもありますので、早めの対策を啓蒙するというのが非常に大事だと思っております。

○櫻山会長 ありがとうございます。

松岡委員は、何かもう患者さんが来ているとかいう話がありますか。

○松岡委員 耳鼻咽喉科の松岡と申します。本当に今日は貴重なお話をしていただきましてありがとうございます。

私は花芽の研究ということしておらず、情報をいただくばかりで、本当に申し訳ないんですが、これを患者さんに還元して、こういう情報を聞いてください、見てください、パンフレットをご覧くださいというような形で、少しずつ還元させていただければと思っております。今年は患者さんが多く、早くからいらっしゃいます。私は分かりやすく、「1月の松の内が明けたら少し準備を始めましょう。早めにお薬を飲むなどの対策をしましょう。」とか、マスクは皆さんしていらっしゃるので、とてもいいんですが、あと、「2月のバレンタインデーになったら気をつけましょう。今年は早めだと思いますので」、などというような感じで、説明しております。

○櫻山会長 ありがとうございます。

ほかにご発言のある委員はいらっしゃいますか。

- ご発言無し -

それでは、本日の議事を終了いたしまして、進行を事務局にお返しいたします。

○事務局 櫻山会長、ありがとうございます。

皆様、本日はお忙しい中、貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

先ほどお話ししたとおり、このあと、東京都のスギ・ヒノキ飛散予測について、プレス発表をする予定でございます。

ただいまをもちまして、今年度の第2回の東京都花粉症対策委員会を終了させていただきます。ご協力ありがとうございます。

なお、委員の先生方は、このあとの事務連絡がございますので、そのまま接続したままお待ちください。傍聴、速記の方はご退出をお願いいたします。本日はありがとうございました。

(14時33分閉会)